



山口(中上)悦子先生

第24回 みみはらグループ医療介護安全大会

参加型の講演で楽しい学び 心理的安全性を根付かせる



寸劇を交えた講演

2024年7月13日(土)、みみはらホールにおいて医療介護安全大会が開催されました。この安全大会は、2000年6月に耳原病院でのセラチア院内感染で3人の方がお亡くなりになったことを教訓に開催され、今年度も黙祷し、田端理事長の開会挨拶から始まり、会場とWebでのハイブリッド開催され、約400人が参加しました。

今年度大会テーマは、「心理的安全性を根付かせる」で3事業所と健康友の会の取り組みを交流しました。基調講演では大阪公立大学医学部附属病院 医療安全センター医療の質・安全管理部部長の山口(中上)悦子先生から「本当は怖い心理的安全性」をお互いを尊重する組織文化へ」をテーマにご講演いただき、職員による職場のよくある光景の寸劇を交えた参加型の楽しい学びとなりました。

心理的安全性とは、メンバーがリスクを言し、自分の考えや懸念を表明し、疑問を口にし、間違いを認めてもよく、その結果を恐れずにできると信じていることです。つまり「率直であることが許される」という感覚(エイミー・エドモンドソン)であるということです。今回の基調講演の「本当は怖い心理的安全性」とは、ミスや懸念・問題を共有し、異なる意見・提案を言っても責められない、否定されない、怒られない、無視されない環境を互いにつくることによって、相互支援やリスクの回避、新しい方法の発見に繋がり、結果として被害の低減、問題の解決・改善・改革となります。そのような効果的チームや組織を育てるためには、互いの情報や仕事が増すということとです。たとえば、チェックバック(確認会話)というもので、相手の言ったことを自分の理解し

発表演題

- 2024年度総合病院の医療安全の取り組み
 耳原総合病院 副病院長
 医療安全管理室 室長 外山 和隆
- 医療安全と業務改善への取り組み
 みみはら在宅クリニック
 看護管理師長 谷 祐佳
- 療養棟でのコロナクラスターを経験して
 介護老人保健施設
 管理看護師長 森 陽子
- リスクマネジメント委員会の活動報告
 泉州メディカ みのり薬局
 薬局長 塚本 恭司
- 健康友の会 活動報告
 健康友の会みみはら
 会長 江戸 道子

行ってきます!

原水爆禁止2024年 世界大会・広島大会

今年度は原爆投下から79年を迎えます。被爆者の平均年齢も85歳を超え、あと数年のうちには被爆者自身から体験を聞くことができなくなるのでは、と言われているのです。



今年度の原水爆禁止2024年世界大会・広島大会には、みみはらグループから年齢や職種もさまざまな24人が参加します。半数以上が初めての参加です。大会では被爆体験を聞くだけでなく、海外での核実験による被害者、世界中で取り組まれている核兵器廃絶

た内容を確認し、承認されたことを確認して行う、というものです。これによりコミュニケーションエラー(思い込み)によって時間と労力が無駄になるということを防

ぐことができます。その際に「確認させてください」という一言や「ありがとう」というねぎらいが大事なポイントです。また、効果的な報告の仕方「SBAR」では、S 一番の問題点や緊急を要することを先に述べ、R 自分の提案や相手にしてほしいことを述べる「つかみ」と「おち」が大事だと紹介されました。そして、異なる意見が出された場合、「でも」ではなく「じゃあ...」(Yes and...)というポジティブな対応が必要とされます。

閉会の挨拶では、奥村副理事長から、みみはらグループで「なぜ医療介護安全大会を続けているのか」について、耳原総合病院と雪印乳業の例を挙げて、安全に対する真摯な取り組みについて話され、これから20年後の自らの組織を想像し、今一度襟を正そうと訴えられました。

(同仁会本部専務補佐
 柴田 康宏)

の運動も学び、平和のあり方を考える時間にしたと思います。

先だって行なわれた医療介護安全大会では、1年目事務の3人、ケアマネジャー1人が前に並び、財政活動として、カンパのお願いをアピールしました。会場のみなさんから2万7831円のカンパが集まりました。8月29日には、大会参加者による報告会を予定しています。ぜひ、多くの方に参加していただき、核兵器廃絶、平和への願いを広げたいと思います。